

まんのう町教育委員会だより

爽そうふう風

子どもの健やかな成長を願って

令和3年〔2021〕

6月1日発行

Vol.25
Contents



- P.2 まんのう町学校教育実践指針
- P.3 希望に満ちて 新たな旅立ち
- P.4-7 **特集**
子どものネット依存を考える
- P.8-9 **園・学校ウォッチング**
満濃南小学校・高篠こども園
- P.10 **シリーズ「声」**
- P.11 ホットニュース

一滴もこぼさないように…

力を合わせてかさ比べをする 満濃南小の1年生
(8ページに関連記事)

※写真は、令和2年度のものです



卒業・修了式

3月12日 満濃中学校
3月16日 各小学校
3月18日 各こども園

式場に入らなかった在校生が
オンラインで参加



式場に入らなかった在校生の
お祝いの言葉を映像付きで流す



在校生に見送られて
思い出いっぱいの学び舎を後に…

希望に満ちて 新たな旅立ち ～コロナ禍の中で～

入学・入園式

4月6日 満濃南こども園
4月7日 各こども園・満濃中学校
4月8日 各小学校



児童代表から歓迎の言葉



6年生と手をつなぐ代わりに
同じ輪っかを握って入場



入学式までの待ち時間に
6年生が読み聞かせ



入学式が無事終わり ほっと一息



6年生が教室まで案内



令和3年度 まんのう町学校教育実践指針

今年度も自立へ向かう教育を推進します!

※「学校教育実践指針」は、各こども園や学校がそれぞれ特色ある園・学校づくりを行っていく上で共通の基盤となるものです。教育委員会では年度初めにこれを提示し、町内の園と学校が進むべき方向を共通理解して教育を行うようお願いしています。今年度の重点は、以下の4つです。

1 社会と豊かにつながり 特色ある園や学校をつくります



学びを地域に開いて

ICTを効果的に活用

読書を楽しむ子どもに

2 子ども一人一人が 安心して楽しく過ごせる園や学校にします



子ども一人一人の思いに温かく寄り添って

3 学びの質が高まるよう保育や授業を工夫します



「主体的・対話的で深い学び」をめざして

4 地域と協働して子育てにあたります



コミュニティスクールを十分機能させて

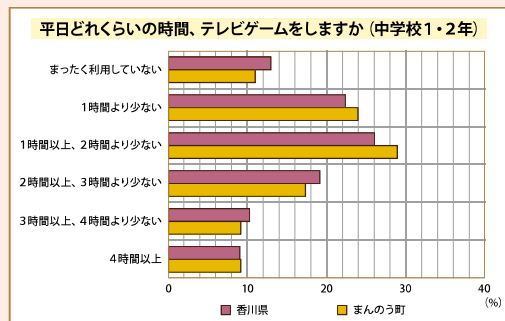
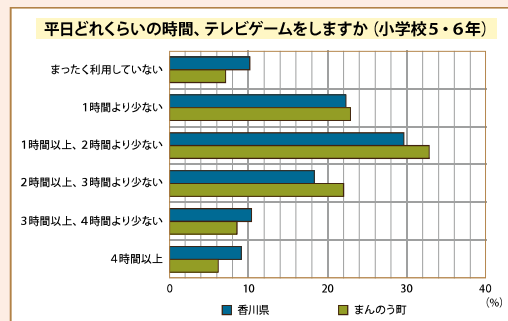
ふるさとに誇りと愛着を持つ子どもに

まんのう町の小中学生とインターネット

県学習状況調査質問紙調査（令和2年11月実施）の結果より

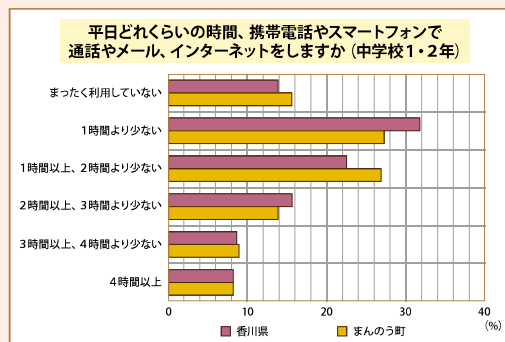
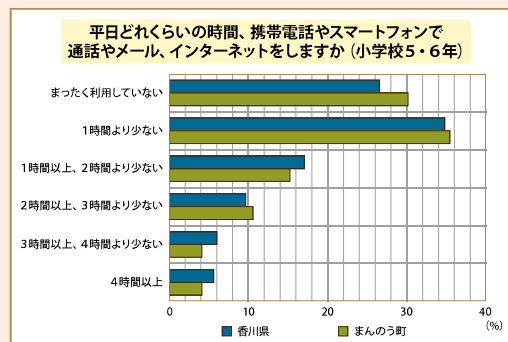
◆ 平日のテレビゲームの時間

- 小中学校ともに約35%の子どもが、平日2時間以上テレビゲームをしています。



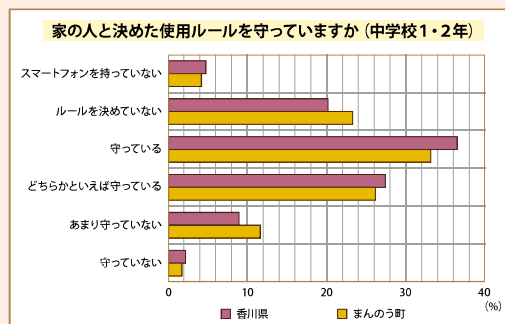
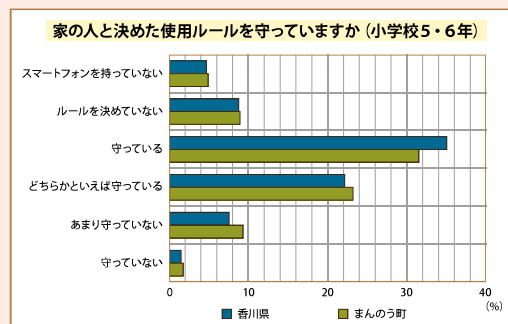
◆ 平日のメールやインターネットの時間

- 小学校は30%の子どもが全く利用していません。中学校は30%の子どもが2時間以上利用しています。



◆ 使用ルールについて

- スマートフォンなどを持っていない子どもは、小中学校ともにわずかです。
- 家の人とルールを決めていない子どもの割合は、小学校約10%、中学校約20%です。
- ルールを「守っている」「どちらかと言えば守っている」と答えた子どもは、小中学校ともに約60%です。



子どものネット依存を考える

スマホ（スマートフォン）、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）など、近年のソーシャルメディアの普及には著しいものがあります。平成30年度版総務省の情報通信白書によると、スマホは平成22年頃から普及が始まり、29年時点で、20代・30代のそれぞれ9割以上が、ネット（インターネット）の接続端末としてスマホを使用しているとしています。

このような中、日常生活に支障があるほどネットにはまってしまう、自分の意志ではやめることができない、いわゆる「ネット依存」「スマホ中毒」と呼ばれる問題が指摘されるようになりました。

子どもたちを「ネット依存」から守るためには、何が必要なのでしょう。

一口に「ネット依存」と言ってもその内容は様々です

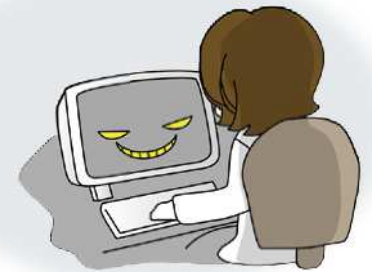


考えよう ネットとの適切な距離

今やインターネットは、電子メールの送受信だけでなく、SNS、地図や交通の情報、辞書・事典サイト、商品の購入、金融取引、ラジオやテレビ等のオンデマンド配信等、その利用はどんどん多様化し、私たちの生活を便利にしています。

そんな中、前ページでも触れたように、子どもの「ネット依存」が問題となつていますが、平成30年6月18日、世界保健機関（WHO）は、オンラインゲームなどに没頭して健康や生活に深刻な支障が出た状態を「ゲーム障害」（ゲーム依存症）という病気に位置づけました。

まんのう町でも、前ページのグラフが示す通り、90%以上の小学生（小学生のうち）がスマートフォンなどを持っており、ゲームやインターネットを行っている実態があります。



ネット依存に陥る可能性は、誰にでもあります。「自分や家族だけは大丈夫」という過信が、大きな後悔につながるかもしれない」と、ネット依存症のための外来を国内で初めて設置した久里浜医療センターの主任心理療法士三原聡子先生は言います。

子どもたちをネット依存から守るためには、保護者がネットの過剰使用による弊害を正しく知り、家族で利用時間や使用場所などのルールを決め、そのなかで使うことが大切です。

また、現実の世界の中で、所属感や達成感を満たしたり自尊心を高めたりできる趣味や活躍の場を持つようにすることも、効果があると言われてています。

ネットのことで頭がいっぱい

長時間しないと気が済まない

できないと禁断症状

問題が起きていても続ける

ネット依存度チェックリスト

No.	項目
1	ネットに夢中になっていると感じる
2	満足を得るために、ネットの使用時間をだんだん長くしたいと感じる
3	ネット使用を制限したり、時間を減らしたり、完全に止めようとしたりしたが、うまくいかなかったことがよくある
4	ネット使用を制限したり時間を減らしたり完全に止めようとしたとき、落ち着けなかったり、不機嫌や落ち込み、またはイライラを感じたりする
5	使い始めに思っていたより、長い時間続けている
6	ネットに夢中になりすぎて大切な人間関係などを台無しにしたり、危うくしたりすることがあった
7	ネットに熱中しすぎることを隠すため、家族や先生に嘘をついたことがある
8	問題や絶望的な気持ち、罪悪感、不安、落ち込みなどから逃れるためにネットを使う

参考：『ネット・ゲーム依存を予防するために』（香川県発行のリーフレット）

5つ以上当てはまるときは、注意が必要です!!

※ネットで利用する機器には、パソコン・携帯電話・スマートフォン・ゲーム機などオンラインで使用する機器すべてを含みます

感情をコントロールできなくなる

意欲や関心の低下

自分の感情をうまく表現できなくなる

学校へ行けなくなる

寝不足で朝起きられない

攻撃的になる

視力の低下

頭痛や吐き気

など

依存症になると出てくる心身への影響



こんなに害があるなら、スマホなんか持たせないほうがいいかなと思ってしまってもいいかもしれません。

でも、ネットの特性を正しく理解して安全に使用すれば、これからの時代を生きる子どもたちにとって、とても便利で有効な道具となります。

子どもの年齢や力量に合わせて手助けをし、年齢が上がるにつれて少しずつ、使い方を自分で律することができるようにしていきましょう。

※フィルタリング

有害サイトをブロックする機能に加えて、最近では居場所確認、アプリのダウンロードと利用時間制限、課金防止、スマホ自体の利用時間制限など、様々な機能がある。

※ペアレンタルコントロール

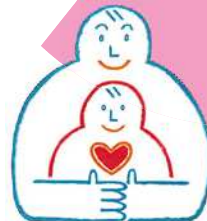
子どもが教育上望ましくない情報にアクセスしないよう保護者が監視制限をかけること。また、そのための機能やサービス。フィルタリングはその中の一つ。

1 子どもの状況をきちんと把握しましょう

2 ネットのリスクを正しく理解しましょう

3 フィルタリング・ペアレンタルコントロールを設定しましょう

4 親子でルールを作りましょう



子どもを守るのは保護者の責任

内閣府が、ネットの危険から子どもを守るための普及啓発リーフレット(保護者向け)を作成しています



児童・生徒編（2021年1月発行）

幼児・児童編（2020年1月発行）

乳幼児編（2019年1月発行）

内閣府普及啓発リーフレット集 検索

園・学校 ウォッチング

満濃南小学校では、「つながり
支え合う仲間意識を基盤にした
学校づくり・学級づくり」をめざ
し、様々な取り組みを行っています
。授業では「学び合い」を大切に
し、学校全体で「色別活動」に取
り組むなど、子どもを主体とし教
師はそれを支援するよう心がけ
た教育を行っています。

学び合い、つながり合う授業

教室では、机をコの字型に配置し、発表する友だちの顔を
しっかりと見て静かに聴きます。また、机の高さを揃え
ることにより、ベアやグループで、同じ目線で自由に話し
合うことができている。分からないことは素直にきき、
自分の意見は遠慮せずに話します。

授業では「学び合い」のルールをしっかりと理解し、「分
かった」「できるようになった」とい
った達成感が得られるようになっています。
「学び合い」を通して、「自分一人
では限界があったけど、友だちと
協力したらできた」という充実
感や、「互いに助けたり助けられ
たりしてできるようになった」と
いう仲間意識が育っています。

学び合う子どもたち



6年生に
見守られながら



つながり支え合う 仲間づくり

満濃南小学校

リーダーとしての自覚や 思いやりの心を育てる色別活動

4月には色別結団式を行います。そして、1年
生を迎える会や水泳大会、運動会、縄跳び大会な
どの行事に色別活動を取り入れています。
リーダーはミーティングを重ね、企画・
運営する力や下級生を思いやる心を身に
付けていきます。一方、下級生はそんな
上級生にあこがれをもつようになりま
す。

3月の「6年生を送る会」では、6年
生から5年生にリーダーの引継ぎが行わ
れたり、1年生がお世話になった6年生
にプレゼントを贈ったりするなど、感動
的な場面がみられました。

5年生のキャンブ



ミ三運動会

「ミ三運動会・水泳学習・キャンブ」
コロナ禍で様々な行事が制限される中で、対
策をしっかりと行いながら体力づくりにも積極
的に取り組んでいます。
従来の、7月までだった水泳学習を、昨年度は
9月初旬まで行いました。熱中症対策にもなり、
好評でした。
また、11月にはミ三運動会を開催し、学年団
ごとに表現活動とリレーを披露しました。
5年生は、満濃森林公園で日帰りキャンブを
行い、キャンブファイヤーを楽しみました。
コロナ禍の中でも、取り組む意味と価値づけ
を大切に、先生方が様々なアイデアを出し、
子どもたちのために計画・実施しています。

地域のかかわり

5年生が、毎年地域の「勝手連」の方々の指導
で行う米づくり体験は、今年で21年目を迎えて
います。
3年生は、地域のアスパラガス農家の見学を通
じて地元の特産物
への理解を深め、そ
れが食育にもつな
がっています。



5年生の田植え

全身を思いっきり動かして

高篠こども園の子どもたちは、元気一杯。
「もったやうりた」次はこつてみよう
と心と体をいっしょに動かして遊んでいます。
子ども自ら様々なものに関わり、豊か
な体験を積み重ねることを大切にして、遊
びの中で学びの芽生えを育んでいます。

太陽の光をいっぱい浴びてのびのびと遊ぶ
ことで、体を動かす気持ちよさを味わうこと
ができます。

かけっこで競い合ったり、ドッジボールで勝つ
たり負けたりする、ケンカをして自分の気持
ちに折り合いをつける、様々な体験を通し
て、子どもたちはやりきった満足感を得、ル
ールを守ったり友だちと協力したりする大切さ
を知り、運動する意欲や人とかわる力を育
んでいきます。また、それが健康で安全に生
活する力にもつながっていくのです。

水や砂の力を体験！

砂場でカップの中に砂を入れ、型抜きをする
子どもたち。けれども、さらさらの砂では
壊れてしまふ。指先や手のひらで感触を確か
めたり、腕を使って固めようとして自分な
りに試します。

型抜きで様々な形を作ったり、草花や水と
合わせてケーキを作ったり遊んだり、泥んこになっ
たり、掘ったり、積み上げたり、泥んこになっ
たり。砂遊びは不思議さや面白さがいっぱい
の、とても魅力的な遊びです。
桶をつないだり、傾斜を変えたり、砂や水
の量を変えて流して遊んだり…。夢中になっ

遊びの中には 学びがいっぱい

高篠こども園



ようい ドンソ!

みんなの思いが つながって

て積み上げることで、高さや
量を感じ、時には協力するこ
とも学びます。また、いろ
ろ試すことで創意工夫する力
を高めています。

曲に合わせて一緒に遊んで、
「ポーズはこれでいい！」
と、振り付けやかけ声のタイミ
ングを相談。
「もった大きな声を、みんな
で出す」と
思ひ、
「そっだね。やってみよう」
と、踊り始めました。見ていた
子ども、
「一緒にしてみよう！」
と真剣に、時には笑いあっ
て、何度も踊っていました。

クラスの友だちとダンスを
一緒に作りあげ
ていく過程でイ
メージや目的を共
有し、一つのこ
とに一生懸命に取り
組めます。その中
で、自分の思いに
従えたり、友だち
の思いを聞き入れ
たりすることを学
びます。そして、
人とかかわる力や
表現する力などを
育んでいくと考え
ています。



曲に合わせて

青虫の成長で感動体験

園庭で栽培していた芽キャベツに青虫が
いることに気づいた子どもたち。「どんな
チョウになるのかな」と飼ってみたい。
いつ、さなぎになるのか、チョウになるの
か、図鑑で確認したり実物と見比べたりし
ながら見守っていました。
ついに羽化を迎え、感動を共有し心が響
き合う子どもたち。生き物の成長に触れ、
友だちとともに考えた調べたりするなか
で探求心が芽生え、みんなで知る喜びや生
命の不思議さ、尊さを学びました。

様々な経験を通して子ども自身が興味
をもって自ら学びに向かふことができる
よう、環境づくりに力を注ぐことも、
遊びの中の学びを大切にしています。こ
れからも自ら遊び、進んで学ぶ子どもの
育成をめざして努力していきます。



水が落ちる!

青虫 おった!

第3回 MIEA 英語朗読コンテスト (R3.2.27:かりん会館)

※MIEA: まんのう町国際交流協会



左から
4年 富井 夏鈴 (長炭小)
4年 岡田 笑愛 (長炭小)
※学年は受賞当時のものです

今年で3回目を迎えるこのコンテストは、当初1月9日に予定されていましたが、新型コロナ感染拡大のため延期になり、2月27日に実施されました。今年も町内の小学4～6年生25名(4年生11名、5年生10名、6年生4名)が参加し、あらかじめ提示された課題の英文朗読に挑戦しました。

今年の課題は「Our new lifestyle(新しい生活様式)」。コロナによって大きく変わった生活様式の中での人とのつながりの大切さと、支えてくれるまわりの人への感謝の気持ちを述べた英文を3分以内で朗読します。

審査の結果、左の2名が最優秀賞に選ばれました。

教職員の人事異動



町合同離任式 (R3.3.31)

異動になった教職員のうち、退職及び町外へ転出する者が参加しました。

小中学校・こども園合わせて8名の先生方が、令和2年度末をもって退職されました。

昨年度は新型コロナ感染拡大のため、町合同の離任式、着任式はいずれも実施できませんでした。今年度は来賓の出席を取りやめ、規模を縮小して満濃中学校ランチルームで行いました。

異動になった教職員のうち、町外から転入した者が参加しました。細原生涯学習課長が、まんのう町の概要を紹介しました。



町合同着任式 (R3.4.1)

満濃南小学校が文部科学大臣表彰! ~令和2年度子供の読書活動優秀実践校~

文部科学省は、平成14年度から子どもの読書活動の推進をめざして、特色ある優れた実践を行っている学校、図書館、団体・個人に対し、大臣表彰を行っています。この度、満濃南小学校が令和2年度の優秀実践校として表彰されました。

毎年4月23日に開催される「子ども読書の日」記念子どもの読書活動推進フォーラムの中で、今年も表彰式が行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となりました。

※「子ども読書の日」…子どもの読書活動推進に関する法律第十条により、4月23日とされています



第11回 新たな始まり

～コロナ禍の1年を乗り越えて～

新型コロナの感染予防に悩まされ続けた1年が過ぎ、春はまた、いつものように巡ってきました。まだまだコロナに終わりは見えませんが、そんな中でも、新学期は気持ちを新たにスタートを切る特別なとき。

暖かい春の日差しの中で、子どもたちとの出会いに胸をふくらませて新学期を迎えた先生方の「声」を紹介します。

子どもたちと一緒に

昨年度は新型コロナウィルスに翻弄された一年でした。新学期が始まって早々の緊急事態宣言による登園自粛、生活様式の変化、行事の在り方の見直し等、今までの園生活が大きく変わることになりました。

そんな中で、職員同士、保護者の方と話しながら、子どもたちにとって安全で楽しく過ごせる園生活を考えていきました。行事での保護者の参加を分散して密にならないようにしたり、子どもたちの活動の様子をビデオに撮って伝えたりしました。

心配していたマスクの着用にも次第に慣れ、進んで手洗い・うがいをするようになり、新しい生活様式が身に付いてきました。

今年度、私は4歳児クラスの担任となりました。子どもたちは進級したことが嬉しく、元気いっぱい登園しています。園庭にあるのぼり棒に挑戦。

「せんせい、みてー」までのぼれたよー」

「なんちゅうさんになったきん」

と、誇らし気に話してくれる姿に成長を感じました。

園庭には大きな桜の木があり、4月当初は花が満開でした。風に吹かれて花びらが舞う様子を見て、

「ちゅうちゅうがとつぷるみたいや」

「はらゆらこんで、きれいなあ」

と話す子どもたちの目は、キラキラ輝いていました。日常の小さな出来事にも、子どもの目線からの発想や

思いを共有できることが、私にとって幸せな時間となっています。

コロナ禍を、園生活を見直すよい機会だと捉えて、健康、安全面に配慮していきたいと思えます。そして、子どもたちの成長を第一に考え、子どもの思いに寄り添いながら保育をしていくことを大切にしていきたいと思っています。

満濃南こども園

保育教諭 足立 利江子



知恵を出し合って毎日を楽しむ

昨年度は、新型コロナウィルス感染症の影響で、臨時休業から始まった一年。子どもたちがいない学校は静まり返っていて、時間の経つスピードが遅く感じられる日々でした。そんな一か月を過ごし、子どもたちが学校に戻ってきた時は、とても嬉しかったことを覚えています。夏になり、初めての行事となった色別水泳大会。

例年のように、全校生が集まって自分のチームを応援することはできなかったけれど、低・中・高学年に分かれて競技を行いました。自分のチームの勝利のために精一杯頑張る、大きな拍手で応援したこの行事は、新型コロナウィルス感染症が流行している中で、学校の活力を取り戻すいい機会となりました。

そして、昨年度一番の行事となった三運動会。

春に開催されるはずだった運動会が中止になり、6年生の担任をしていた私としては、「6年生の心に残ることをさせてあげたい」という思いのもと、三運動会を企画しました。先生方の温かい後押しがあり、実現できることが決まった時は、とても嬉しかったです。たくさんの制限がある中でも、先生方や子どもたちと、できることは何かを考えながら進めていくことで新しい発見があり、子どもたちの大きな成長を感じることができました。特に6年生は、三運動会当日は、どの学年も素晴らしい演技でした。特に6年生は、今までの中で一番の演技で締めくくることができ、思い出深い一日になりました。

そして、今年度。まだまだ新型コロナウィルス感染症への警戒が必要で、春休みを終え、新しいクラスには子どもたちの笑顔や笑い声が広がっています。今年度も、できないことを嘆くのではなく、先生方や子どもたちと知恵を出し合って、たくさんの可能性を見つけながら、毎日を楽しんでいきたいと思っています。

満濃南小学校

教諭 西山 正章



やっとできた！ つるつるの まんまる団子



泥団子づくりに夢中
高篠こども園にて
(9ページに関連記事)

編集・後記

「お父さんは、ちょっと遠い所で仕事をするようになったから、お母さんと元気に過ごしてね」
まだ2歳の幼い息子に動画の中でそう語りかけた父は、その一週間後、白血病で亡くなりました。

茨城県の小学一年生、佐藤巨紀君が書いた作文『おとうさんにもらったやさしいうそ』が、日本語検定委員会主催の第12回「日本語大賞」で文部科学大臣賞を受賞しました。愛する家族を残して旅立たなければならぬ無念さ、悔しさを押し隠し、幼い息子へ最期のメッセージを残したお父さん。その心をもつと、目頭が熱くなります。母親のスマホに保存されたこのメッセージは、その後の巨紀君をどれだけ勇気づけ、励ましてきたことでしょう。

「スマホ」という小さなコンピュータは、お父さんの動画を正確に保存し、巨紀君が見たい時にいつでも見られるようにしました。この動画を何度も見ることで、夢をもつて生きていく強い心をもつことができたのでしょう。このようにICTの発達、様々な場面で私たちの生活を便利に、快適にしてくださることを感じます。

しかしながら一方で、人とのつながりのありようを変えてきたことも事実です。LINE、ツイッターなどSNSの普及によって、私たちは直接会うことなく、いつでも人とつながることができるようになりました。また、それまでは想像もつかなかった数の新しいつながりを持つことも可能になったのです。ところが、そういったコミュニケーションの中では、本来、直接会っている相手とは考えられないようなかわり方が存在し、トラブルも多発していることは、周知の事実です。

人は直接会うことによって、言葉だけでなく五感を通して相手の気持ちを感じ取り、会話をし、コミュニケーションを深めていきます。むしろ、言葉でうまく表現できない感覚的なものの中にこそ、人が人と豊かにかかわっていく上で大切にしたいことが含まれているとも言えるでしょう。どんなにICT環境が整備され便利な世の中になったとしても、教師やたくさんの仲間たちと直接かわりながら、ともに学び生活する「学校」という存在は、子どもたちが人として豊かに成長していく上で、なくてはならない場所であると感じます。また、年々進化するコンピュータを生かすも殺すも、それを使う人間次第。いかに効果的に活用するかが、これからの重要な課題だと言えるでしょう。

特集

進むICTの活用

※一人1台端末で

授業はどう変わる？



園・学校ウォッチング

- ・仲南小学校
- ・仲南こども園

次号(8月1日発行)予告